

お客様プロフィール

◆住友ベークライト株式会社

資本金 37,143 百万円
 従業員数 単独 1,676 名／連結 5,708 名
 年間売上高 単独 902 億円／連結 2,118 億円
 本社所在地 東京都品川区東品川二丁目 5 番 8 号
 天王洲パークサイドビル
 URL <https://www.sumibe.co.jp/>

数あるプラスチックの中で最も歴史の古い「ベークライト」は、ベルギー系アメリカ人のベークランド博士が開発したフェノール樹脂の名称です。当社はこのプラスチックを日本で初めて製造したメーカーを前身に持ち、社名の由来もそこにあります。

それから 100 年あまりの年月をかけ培ってきた高度な技術と最新設備から数々の技術革新を成し遂げ、プラスチックのフィールドを広げてまいりました。

現在では、スマートフォンなどに使用する半導体関連材料、自動車の軽量化に欠かせない金属代替プラスチック、最新の医療や、バイオ関連製品、食品包装・建材などの広範囲な分野に製品を提供し、安全で快適な生活環境づくりに貢献しています。



住友ベークライト株式会社 本社



住友ベークライト株式会社
 情報システム部
 住友情報システム株式会社
 IT企画推進グループ 担当部長
 松本 利朗 様

住友ベークライト株式会社 様

現地では何が起こっているんだ！？

グローバルネットワーク運用サービス導入前の悩み

- ・インターネットVPNの場合、現地回線事業者に直接英語で確認するのが苦痛
- ・拠点のITスタッフとのコミュニケーションは現地語や英語は必須
- ・US/ヨーロッパなど時差のある拠点の対応は休出や深夜残業時間増に直結
- ・現地のネットワーク機器の接続環境の把握も重要

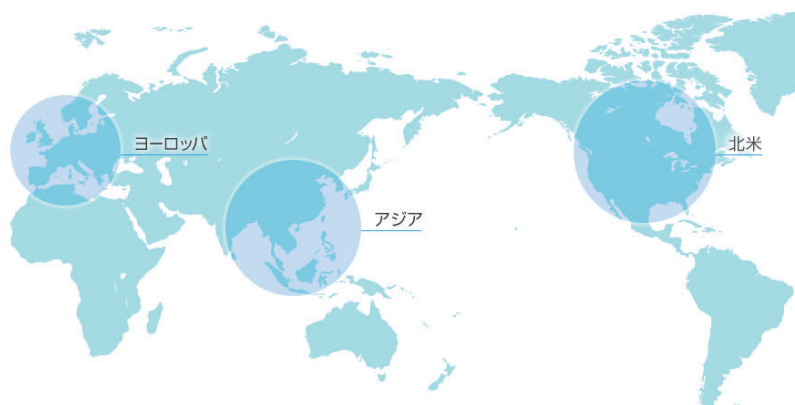
ネットワークを監視していても...

原因まではわからないことがほとんど。問題は検知したあと。

サービス導入後は、現地の状況を的確に報告できるようになった。

住友ベークライト株式会社の情報システム子会社 住友情報システム株式会社のIT企画推進グループ担当部長 松本 利朗 氏は次のように話す。

「以前は、海外拠点との接続が切れた場合、何が原因で発生したのか、いつ復旧する見込みなのかすぐには分からず、関係部署への報告もままなりませんでした。障害原因を調べるために自力で海外に問合せし、各部署へタイムリーに報告することはほぼ無理なことと感じていました。そんな折、海外10拠点のWANルータのリプレイス案件においてSDCからグローバルWANルータの構築だけでなく、その後のグローバルネットワーク運用監視のご提案を頂きました。実は、インターネットVPN回線の場合、日本国内の中では回線障害はほとんどありません。一番よくある障害は現地のビルの停電が現地インターネットプロバイダーの管理する網内の障害に起因するものがほとんどです。SDCからの提案には単なる機器の死活・性能監視サービスだけでなく、現地インターネットプロバイダーへの問い合わせまでも代行してくれるサービスが含まれていました。さらに調査結果を日本語で報告してくれるので、翌朝には、何が起こったのか的確に把握し報告することができるようになりました。大変助かっています。」

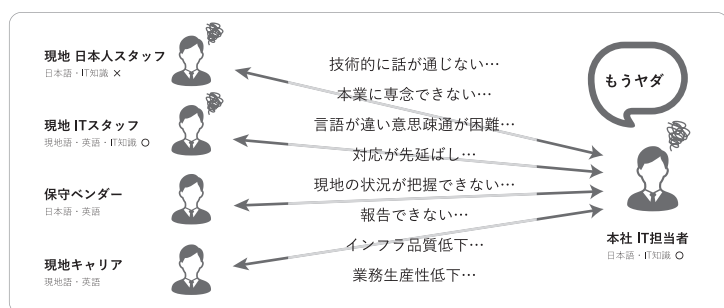


世界 15 の国と地域において事業を展開

現地スタッフだけでなく現地キャリアや保守ベンダーなどやりとりが複数になる点も負担だった。

保守ベンダーに問い合わせをしても、機器の故障かどうか切り分ける必要がある。国内のキャリアに連絡をして日本側の回線に問題はないと言われる。海外でインターネットサービスを現地プロバイダ契約している拠点ではそれだけでは済まない。

現地からクレームを受けながら、経営にも明確な報告ができないジレンマの中で暗中模索の障害対応を続けていた。



課題を解決する手段としてグローバルネットワークに強い SDC のサービスが有効だった。

「MNS (Managed Network Service)：グローバルネットワーク障害切り分け支援サービス」の導入

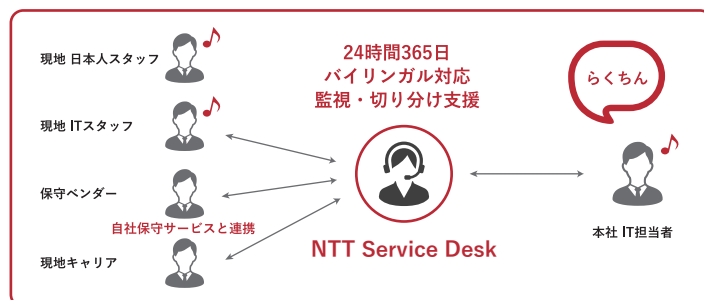
SDCはSCSKとNTT Asia Pacific Holdings Pte. Limitedとの合弁会社だ。
NTT Limited は世界5大陸49か国に拠点をもち、パートナー網を含め100か国以上で製品のデリバリー、保守を提供可能だ。

SDCはNTT Limitedの持つサポートセンター「NTT Service Desk」を用いて、ネットワークインフラの監視、運用、管理を実現する「MNS：グローバルネットワーク障害切り分け支援サービス」を提供している。

住友ベークライトでは、海外拠点の監視運用にSDCの「MNS」を組み込むことで、これまでの悩みを一気に解決した。

導入後の改善ポイント

- ・ 窓口が一つに
- ・ 現地の状況が日本語で報告される
- ・ 低コスト



「MNS」はその名のとおり、バイリンガル対応可能なMSCによる障害切り分け支援にその価値があると松本氏は語る。

現地の保守はディメンションデータとの保守契約を締結しているため監視と保守を連携させることで窓口も一本化が可能。
1拠点あたり月1.5万円のコストで済んでいる。

導入後は「MNS」のおかげで障害発生時に手間なく状況の把握・報告ができた。

「MNS」導入後早々、対象拠点で障害が発生した。
MSCが中心となり原因特手のため現地拠点や現地キャリアとやり取りが行われ、状況が日本語で報告される。
機器の故障でもなく、回線にも問題はなかった。
現地拠点の「ビル停電」に起因するもので数時間後には復旧するという。

松本氏は言う。

”グローバル企業であれば、少なからず同じような悩みを抱える企業はあると思う。SDCの「MNS」はグローバルネットワーク運用に十分な投資をできずに悩んでいる企業には、非常に役立つサービスだと思う”

SDCは「MNS」としてのサービス拡充を進めるだけでなく、今後の新しいネットワークの仕組みづくりについても価値ある提案を行い、住友ベークライトのグローバルビジネスを支えていく。

※ 記載の会社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。※ 記載製品またはサービスの仕様は予告なしに変更される場合があります。※ 掲載内容やご登場いただく方の役職はサービス導入当時のものです。

お問い合わせ先



SDC 株式会社

<http://www.sdc-corp.jp/>
sales@sd-corp.jp